



INVESTOR RELATIONS デリカレポート

# DELICA REPORT

18 第18期 事業報告書

2020年4月1日 ▶ 2021年3月31日



デリカフーズホールディングス株式会社  
DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

東証1部 証券コード 3392

# 2021.June TOP MESSAGE

代表取締役社長

大崎 善保



はじめに、新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、罹害された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当期も事業報告をすることができましたのは、ひとえに株主の皆様のご理解ご支援の賜物と重ねて御礼を申し上げます。

当社グループの主力事業であります青果物卸売業では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、主要な販売先である外食産業の需要が大幅に減少し、当社の売上高も減少する事態となりました。

当社グループではこのような事業環境の変容に即座に対応すべく、徹底した効率化による損益分岐点の低減、販路拡大に向けた営業活動の強化、さらには、新規事業として消費者向け直接販売事業(BtoC、DtoC)への参入を推し進めてまいりました。

また、これまでFSモデルとして展開してきました当社グループの加工工場や物流センター、エフエスロジスティクス株式会社による物流網は、スーパー・コンビニエンスストア・給食事業等においても高い評価をいただき、新たな販路の開拓が進んでいます。その結果、4月から8月の大幅な経常赤字に対し、9月から12月までの4か月間は単月の経常利益が黒字にまで回

復いたしました。1月に二度目の緊急事態宣言が発令されたことで再び売上は低迷し、上期の赤字をカバーするまでには至りませんでした。

これらの結果、当連結会計年度における売上高は31,725百万円(前期比21.5%減)、利益につきましては、営業損失が1,467百万円(前期は571百万円の営業利益)、経常損失が1,031百万円(前期は641百万円の経常利益)、親会社株主に帰属する当期純損失は953百万円(前期は360百万円の親会社株主に帰属する当期純利益)となりました。

なお、新規事業の具体的な内容としては、消費者向け直接販売事業(BtoC、DtoC)への参入として、4月にドライブスルー八百屋を展開。7月には「ベジマルシェ」ブランドにて独自のECサイトを立ち上げました。また9月に設立した合弁会社・株式会社青果日和研究所にて「青果日和」ブランドによる一般消費者向けの通信販売を12月よりスタートいたしました。さらに、ミールキット製造販売を目的とした孫会社「デリカフーズ長崎株式会社」を12月に設立し、3月より稼働を開始しております。

今後もグループ一丸となり、ウィズコロナに向けた事業の確立に努めるとともに、さらなる企業価値向上を目指してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 業績の概況

下期は赤字幅を縮小したものの、緊急事態宣言の再発令などにより、売上高、利益ともに前期比減となりました

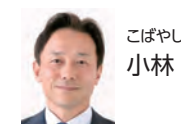
### 当連結会計年度の業績

売上高	31,725百万円 (前期比21.5%減)
営業損失(△)	△1,467百万円
経常損失(△)	△1,031百万円
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△953百万円
1株当たり当期純損失(△)	△64.59円

総資産利益率 (ROA)	株主資本利益率 (ROE)
△4.28%	△12.70%

### 取締役のご紹介

取締役



こばやし けんじ  
小林 憲司

デリカフーズ株式会社  
代表取締役社長 兼任

取締役



なかやま こんの  
仲山 紺之

社外取締役



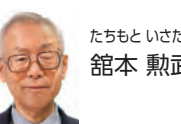
おざき ひろゆき  
尾崎 弘之

社外取締役



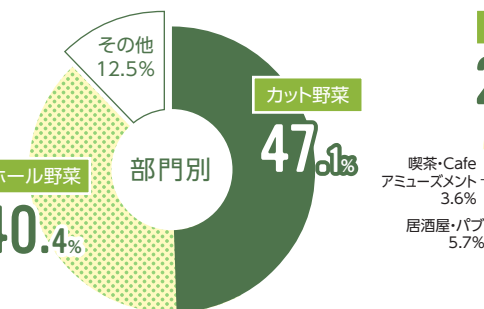
しばた みすず  
柴田 美鈴

取締役会長

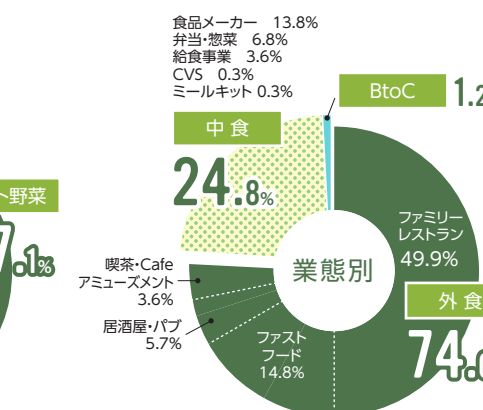


たちもと いさたけ  
館本 勲武

### 販売構成比



加工していない野菜そのものをホール野菜、お客様のご要望に合わせて加工されたものをカット野菜といいます。また、第三の基軸商品として展開している真空加熱野菜もカット野菜に分類されます。



外食・中食と大きく分けて2つの業態があり、全体の7割以上が外食業界に向けた売上となっております。  
※ファミリーレストランには、イタリア料理、中華料理、和食等の業態も含まれております。



# アフターコロナへ向けて

新型コロナウイルスの影響で、青果物流通業界を取り巻く環境は大きく変化いたしました。当社グループでは、BtoC向け商品の販売や新規事業、ECサイトの運営など新たな取り組みを行い、目まぐるしい変化に対応してまいります。

## アフターコロナに向けた事業の変化

コロナ禍における外食業界では、経営環境の急激な変化により、大きく業績を伸ばした企業と低迷した企業で二分されました。当社グループでは、大手ファストフードや回転寿司チェーンなど、コロナ禍でも堅調な業界へのアプローチを強化するとともに、スーパーや給食事業にも販路を拡大しております。これらの取り組みは、当社グループの強みが活かされ、新たな販売チャネルの拡大に繋がっております。また、このたび2024年3月期までの3年間を期間とした新中期経営計画(Transformation 2024)をスタートいたしました。基本方針は「事業ポートフォリオの変革」「青果物流通インフラの構築」「サステナビリティ経営の推進」の3つです。アフターコロナへ向けて、更なる成長モデルを構築してまいります。



## 【ベジマルシェ事業を開始】

2020年7月に、新規事業としてVegeMarché(ベジマルシェ)を開始いたしました。これまで当社グループが蓄積してきた「食と健康を繋ぐ情報」や「研究結果」を直接消費者へ届けることを目的に、ECサイトやイベント、セミナーを通じて広く啓蒙活動を展開してまいります。ECサイトでは、全国各地の生産者の方々が丹精込めて作った、美味しい青果物を販売いたします。新鮮な野菜ボックスや、贈答用の高級フルーツ、格安な青果物など、幅広い商品ラインナップを用意し、BtoCという新たな販路拡大に向けて取り組みを続けてまいります。

ベジマルシェ公式サイト

おすすめ商品などをサイトにてご紹介しています!

URL <https://vege-marche.com/>

QRコードから  
アクセス!



## 【青果日和 新商品開発】

当社の関連企業である株式会社青果日和研究所では、2020年12月より「青果日和」ブランドにて一般消費者向けにECサイトを立ち上げ、通信販売を本格スタートいたしました。同サイトでは、こだわり野菜と旬のフルーツをセットにした「青果ボックス」を販売し、ご好評いただいております。2021年3月18日からは、新商品「青果まるごとスムージー」の定期宅配サービスを開始いたしました。ラインナップは野菜と果物本来の美味しさを感じる5種類のスムージー。保存料や添加物を使用していないため、安心、安全にお楽しみいただけます。

QRコードから  
アクセス!

Webサイトで最新情報をCHECK!

Webサイトにて商品情報やレシピ、生産者をご紹介しています。

URL <https://seikabiyori.jp/>



## 【デリカフーズ長崎を設立】

2020年12月21日に、デリカフーズ株式会社の100%子会社として「デリカフーズ長崎株式会社」を設立いたしました。新型コロナウイルスが猛威を振るうなか、人々と食の関わり方も多様化しております。当社グループではそのニーズにより一層対応するため、小売業態への販路拡大や一般消費者への直接販売など、事業の多角化を推し進めております。その一環として、「デリカフーズ長崎株式会社」を設立し、ミールキット事業を開始いたしました。ミールキット事業では、レシピの開発やキット商品の販売、たれの製造などを行い、新たなニーズに対応してまいります。

名称 デリカフーズ長崎株式会社

設立日 2020年12月21日

所在地 長崎県諫早市津久葉町5番地70号

事業開始 2021年3月





## フードチェーンをまるごと分析し、 安心と信頼を実現

当社グループでは、「中身成分」「安全」「流通」「栽培」の4つの分野で青果物を分析・評価する「デリカスコア」という19の評価指標を設けています。実施の目的は、栽培から消費に至るまでの各過程において起こり得るリスクとメリットを分析し、それらを管理することです。活用によって、生産者は、土壌や栽培方法を継続的に改善できます。また、消費者には、中身成分や安全性などが見える化されることで、安心と信頼に繋がり、食の選択肢が広がります。



野菜の健康診断

デリカスコア



糖度や抗酸化力の測定

内部障害の検出を可能に

非破壊選別技術で特許を取得

## 非破壊選別装置で「中身の見える化」

安全で美味しく健康な青果物を提供するため、「中身の見える化」に力を入れております。特に、農水省研究助成金を受けて開発されたトマトの非破壊選別装置の技術は、「抗メタボ青果物の選別方法」として特許を取得いたしました。この装置では、糖度や抗酸化力(リコピンなど)を非破壊で計測・選果できるため、中身を傷つけず成分の分析が可能です。この研究は、レモンの内部障害を検出する「レモン非破壊選果装置」の開発にも繋がりました。

# 研究開発 REPORT

「農場から健康を目指す」想いのもと、当社グループ  
行っています。研究成果は学術論文として

では青果物の成分分析やさまざまな研究開発を  
発表し、高い評価をいただいております。



研究開発活動から

さまざまな論文発表

## 人々の生活・健康に役立ち、 グループに貢献する研究開発を目指して

当社グループでは、これまでにさまざまな研究開発を行ってまいりました。その中の一例として、ほうれん草の成分を分析し、抗酸化力と糖度が冬に高くなるという「旬の数値化」を実証いたしました。また、トマトなどの「健康機能」をゼブラフィッシュという実験動物を使って遺伝子レベルまで解析し、学術論文として発表いたしました。今後も、情熱・熱意・執着を持ってスピーディーな研究を続け、グループの業績向上に貢献してまいります。



左:野菜の旬  
(学術論文)

右:ゼブラフィッシュ  
(学術論文)



今後の研究活動

展望について

## 新たな研究・開発で社会に貢献

2021年4月1日より、株式会社メディカル青果物研究所の取締役研究所長に有井雅幸が就任いたしました。今後は、地球温暖化による影響に対応するとともに、持続可能なスマート農業やスマート・フード・チェーンの構築も視野に入れてまいります。

また、農水省の「みどりの食料システム戦略(SDGs)」に対応し、「食品ロス削減のための鮮度保持や消費期限延長等に資する保存・殺菌技術開発」などに取り組み、社会に貢献してまいります。



## 新所長MESSAGE

株式会社メディカル青果物研究所  
取締役研究所長 有井 雅幸

新型コロナウイルスの感染拡大により、消費者の行動や食品業界の形勢が大きく変化しています。その流れに掉さして、当社グループも順応する必要があります。研究・開発の課題を定め、解決に向け邁進してまいります。

# Transformation 2024

激変する環境の変化に対応するためには、当社の強みを活かしながら、従前の延長線上にない、新たなビジネスモデルを構築して「Transformation」を果たしてまいります。その実現のために、デリカフーズグループは3つの基本方針を策定いたしました。

## 01

### 事業ポートフォリオの変革

コロナ禍に強い業態への販売拡大

+

販売チャネルの拡大および商品ラインナップの拡充

+

新規事業への参入

今後は、テイクアウトやデリバリーなど、外食業界のなかでも新型コロナウイルスの影響を受けづらい業態へ販路を拡大すると同時に、スーパーや給食関連企業など、外食以外の分野にも積極的な営業活動を行ってまいります。また、商品ラインナップにミールキットや調味液、冷凍野菜を追加し、あらゆる食のニーズに対応いたします。さらに、新規事業として、「食と健康」の啓蒙活動を行う「ベジマルシェ」や、BtoC向けに商品を販売するECサイト「青果日和」を展開。激しい変化に適応する事業ポートフォリオへ、変革を推し進めてまいります。

## 02

### 青果物流通インフラの構築

センター・工場設備の拡充と新エリアへの進出

+

幹線物流網の強化および物流事業への参入

+

イノベーション・DXによる徹底した効率化の推進

インフラ面では、2024年までに新工場または物流センターの増設を予定しております。開設候補エリアは、関東・関西・中国地区の3つで、中国地区には初進出となります。また、北海道・東京・福岡間を自社幹線便で繋ぎ、資材・商材の共同購買およびフードロスを防ぐ在庫コントロールを実現します。物流事業においては、全国の営業所および車両を活かし、他企業の配送を請け負うなど、事業を拡大いたします。また、AIやRPAを積極的に導入し、徹底的な業務効率化を推進してまいります。

## 03

### サステナビリティ経営の推進

サステナブル宣言の実行

+

SDGsへの貢献

+

リスクマネジメント体制の強化

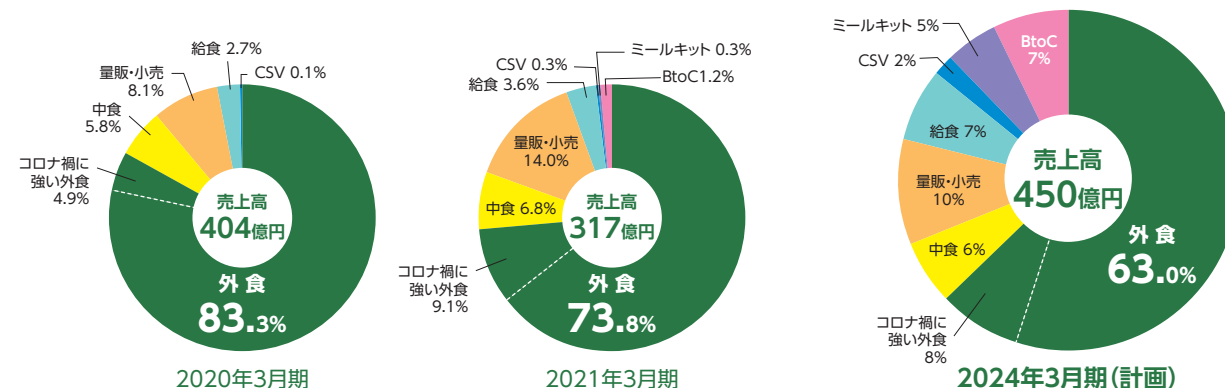
当社グループは、「農と健康を繋ぐ創造企業」を経営方針に掲げ、サステナビリティの精神とともに、持続可能な社会の実現に貢献いたします。SDGsの観点では、「健康社会」「地域貢献」「天の恵みである野菜を100%使い切る」「環境への配慮」「人財育成」の5項目に重点を置き、目標達成に寄与してまいります(本冊子9Pに概要を掲載)。また、リスクマネジメントの面では、「食品安全」や「ITセキュリティ」など7部門のチームからなる危機管理委員会を中心に、高度化する企業リスクに万全の態勢で対応いたします。

## 第四次 中期経営目標

	2020年3月期	2021年3月期	2024年3月期
連結売上高	404億円	317億円	450億円
連結経常利益	6.4億円	△10.3億円	10億円
連結純利益	3.6億円	△9.5億円	6.5億円
ROE	4.6%	△12.7%	7.0%

## 事業ポートフォリオ(計画)

既存外食の中でもコロナ禍に強い業態(テイクアウト、ドライブスルー、宅配・デリバリー、専門店業態など)へのアプローチを強化いたします。また、外食以外の業態やBtoC事業への拡大を図り、事業ポートフォリオの変革とビジネスモデルの安定化を推し進めてまいります。



## 2021年5月13日付にて代表取締役社長就任

### 経営資源を最大限活かして、業績の回復を推し進める デリカフーズ株式会社 代表取締役社長 小林 憲司

創業から積み上げた当社のビジネスモデルは、新型コロナウイルスの影響で、根底から崩され、上場以来初の赤字決算となりました。その中でデリカフーズ株式会社は、現在までに培ったノウハウ、全国の拠点、衛生管理体制、全国物流網など多くの経営資源を最大限活かし、新たな市場開拓・新規売上獲得を進めてまいりました。同時に、全社挙げてのコストダウンを図り、損益分岐点を前期比8.7%下げることができ、下期業績は黒字化を目前にする結果を出しております。今後は緊急事態宣言下にあっても黒字化が達成できるように、更なる効率化・デジタル化を進めるとともに、コロナ禍に強い市場、B2B2C・D2Cへの参入を加速的に推進してまいります。





# デリカとSDGs



## 「天の恵みである野菜を100%使い切る」持続可能な青果物流通ビジネスを実現

当社グループは「農と健康を繋ぐ創造企業」を経営方針としており、事業モデルが広がることそのものが、サステナビリティの向上に繋がる事業だと考えています。今後、サステナビリティの精神とともに、持続可能な青果物流通ビジネスを創出し、世界的目標の達成に貢献してまいります。また、青果物事業の拡大を通して農業の成長を促進することで、酸素産出量を上昇させるとともに、二酸化炭素の吸収量を増やし、脱炭素社会の構築に奉仕します。

### サステナビリティ経営の推進イメージ



### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

我々デリカフーズグループは、サステナブル宣言の具体的な実行計画として「SDGsへの貢献」と「ESG活動」を推進してまいります。



#### 地球環境問題への取り組み

- ・青果物流通事業を拡大し脱炭素社会に貢献
- ・グリーンエネルギー活用(太陽光発電、地熱利用)
- ・残渣リサイクルによる飼料化を推進



#### 住みやすい地域社会を目指して

- ・地域活動へ積極的に参加
- ・各種施設への食材提供
- ・障がい者、外国人の積極雇用



#### 天の恵みである野菜を100%使いきる

- ・農業の生産拡大と野菜の消費拡大を推進
- ・野菜を無駄なく利用しフードロスの低減



#### 優しさと強さを兼ね備えた人財育成

- ・女性、外国人含め多様な人財を登用
- ・キャリアプランに沿った研修制度
- ・ワークライフバランスを実現する職場環境を整備



#### 健康な社会の実現

- ・食と健康を繋ぐ新商品の開発と提供
- ・研究部門による中身評価と機能性野菜の普及促進
- ・食育セミナーなど啓蒙活動

### 他にもこんな活動をしています！

事業内での取り組みのほかに、こども食堂、フードバンクなどへの運営支援、スポーツ団体への支援、教育機関対象の工場見学やセミナーの提供、障がい者・外国人雇用の促進、地域活動(マルシェ、地域イベント)への参加、外部機関との共同研究など様々な活動を通して、SDGsのゴールを目指しています。



朝市での地域交流の様子

## DELICA NEWS&TOPICS

デリカフーズグループの旬な情報をお届けします

### NEWS

デリカフーズ株式会社、株式会社メディカル青果物研究所

## JAXAを含む産官学との共同研究

デリカフーズ株式会社と株式会社メディカル青果物研究所は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)、産業技術総合研究所、千葉大学、菱熱工業株式会社の産官学4機関と連携し、JAXA宇宙探査イノベーションハブが公募する「資源循環社会に向けた自立循環型水耕栽培システム(地産地消型探査技術)共同研究事業」の採択を受けました。今後は、それぞれの強みを生かしながら、連携を強化し、事業を推進してまいります。



### NEW FACE!

## 2022年度は50名の新卒採用を予定

2020年度は、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、内定取り消しなどを行わず、全国で62名を採用いたしました。2021年度は、経営状況を鑑みて積極的な採用を控えておりましたが、新規事業への参入や、アフターコロナにおける会社成長を見込んで、2022年度は50名の採用を予定しております。



2021年度新入社員

### NEWS

デリカフーズホールディングス株式会社

## コーポレートサイトをリニューアルOPEN

2021年5月11日に当社のコーポレートサイトをリニューアルいたしました。デザインを大きく変更し、トップページには「日本の食を大きな根っこで支えていく」というメッセージを表示させ、当社が経営活動を行う上での想いを表現しております。当社の情報をより分かりやすくお伝えし、使いやすいサイトを目指し、今後も更新を行う予定です。また、IR情報ページには新中期経営計画(本冊子P7,8)に概要を掲載)の詳細を掲載しております。ぜひ一度ご確認ください。



連結貸借対照表(要旨)

単位：千円

資産の部	第17期	第18期
	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
<b>流動資産①</b>		
現金及び預金	4,276,968	4,641,473
売掛金	3,638,084	3,639,908
商品及び製品	160,999	143,311
仕掛品	10,437	8,111
原材料及び貯蔵品	60,485	97,921
その他	229,057	375,096
貸倒引当金	△2,948	△2,716
<b>流動資産合計</b>	<b>8,373,083</b>	<b>8,903,106</b>
<b>固定資産</b>		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,463,057	6,285,668
土地	3,639,663	3,759,269
その他(純額)	2,198,447	2,365,564
有形固定資産合計	12,301,168	12,410,502
無形固定資産		
その他	67,356	73,724
無形固定資産合計	67,356	73,724
投資その他の資産		
投資有価証券	416,998	568,962
繰延税金資産	121,738	90,078
その他	594,599	590,701
貸倒引当金	△1,519	△4,179
投資その他の資産合計	1,131,816	1,245,563
<b>固定資産合計</b>	<b>13,500,342</b>	<b>13,729,790</b>
<b>資産合計</b>	<b>21,873,425</b>	<b>22,632,897</b>

単位：千円

負債の部	第17期	第18期
	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
<b>流動負債②</b>		
買掛金	1,632,816	1,856,596
短期借入金	260,000	2,200,000
1年内返済予定の長期借入金	1,071,141	1,199,140
未払法人税等	113,330	26,183
未払金	1,424,905	1,327,674
その他	322,822	348,215
<b>流動負債合計</b>	<b>4,825,017</b>	<b>6,957,811</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	8,303,440	7,604,300
その他	721,939	954,000
<b>固定負債合計</b>	<b>9,025,380</b>	<b>8,558,300</b>
<b>負債合計</b>	<b>13,850,397</b>	<b>15,516,111</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,377,113	1,377,113
資本剰余金	2,167,666	2,171,446
利益剰余金	4,447,991	3,420,932
自己株式	△27,025	△24,808
<b>株主資本合計</b>	<b>7,965,745</b>	<b>6,944,684</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	51,866	160,630
退職給付に係る調整累計額	5,415	11,470
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>57,281</b>	<b>172,101</b>
<b>純資産合計③</b>	<b>8,023,027</b>	<b>7,116,785</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>21,873,425</b>	<b>22,632,897</b>

	第17期	第18期
1株当たり当期純利益又は純損失(△)(円)	24.46	△64.59
1株当たり純資産(円)	543.80	482.06
自己資本(千円)	8,023,027	7,116,785
自己資本比率(%)	36.7	31.4

① 流動資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べ6.3%増加し、8,903百万円となりました。これは、主として、現金及び預金が364百万円、未収入金が145百万円増加したことなどによります。

連結損益計算書(要旨)

単位：千円

	第17期	第18期
	前連結会計年度 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)	当連結会計年度 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)
<b>売上高</b>	<b>40,413,389</b>	<b>31,725,670</b>
<b>売上原価</b>	<b>31,137,621</b>	<b>25,501,686</b>
<b>売上総利益</b>	<b>9,275,768</b>	<b>6,223,984</b>
販売費及び一般管理費	8,704,090	7,691,314
<b>営業利益又は営業損失(△)</b>	<b>571,677</b>	<b>△1,467,329</b>
営業外収益	101,820	482,044
営業外費用	31,850	46,491
<b>経常利益又は経常損失(△)</b>	<b>641,647</b>	<b>△1,031,777</b>
特別利益	526,945	133,399
特別損失	546,072	40,222
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	622,520	△938,600
法人税等合計	261,708	14,690
<b>親会社株主に帰属する当期純利益又は当期純損失(△)</b>	<b>360,811</b>	<b>△953,290</b>

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(自2020年4月1日 至2021年3月31日)

単位:千円

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	退職給付に 係る調整累計額	その他の包括 利益累計額合計	
当期首残高	1,377,113	2,167,666	4,447,991	△27,025	7,965,745	51,866	5,415	57,281	8,023,027
当期変動額									
<b>剰余金の配当</b>			△73,767		△73,767				△73,767
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)			△953,290		△953,290				△953,290
<b>自己株式の取得</b>				-	-				-
<b>自己株式の処分</b>		3,780		2,217	5,997				5,997
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						108,763	6,055	114,819	114,819
当期変動額合計	-	3,780	△1,027,058	2,217	△1,021,061	108,763	6,055	114,819	△906,241
当期末残高	1,377,113	2,171,446	3,420,932	△24,808	6,944,684	160,630	11,470	172,101	7,116,785

② 流動負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べ44.2%増加し、6,957百万円となりました。これは、主として、短期借入金が1,940百万円、買掛金が223百万円、1年内返済予定の長期借入金が127百万円増加した一方、未払金が97百万円減少したことなどによります。

③ 純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ11.3%減少し、7,116百万円となりました。これは、主として、その他有価証券評価差額金が108百万円増加した一方、利益剰余金が1,027百万円減少したことなどによります。

※当社は、2019年9月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益及び、1株あたり純資産を算定しております。



青果物の新たな価値を創造し、

「野菜の生産者」と「食の提供者」を繋ぐ

# 青果物専門商社

野菜の生産者

食の提供者



【研究開発・コンサルティング】

デザイナーフーズ(株)

(株)メディカル青果物研究所

野菜の中身分析や機能性研究を実施しています。研究結果を活かして、メニュー提案やコンサルティング業務も行いながら、野菜の新たな価値創造に取り組んでいます。



【加工】

デリカフーズ(株)

全国から調達した野菜を加工し、鮮度を保ったまま国内約28,000店舗にお届け。高いカット技術・パッケージ技術を持つ加工工場は、食品安全にも細心の注意を払っています。



【物流】

エフエスロジスティックス(株)

スーパーコールドチェーンを実現するために、全国に広がるチルド配送網を活かして毎日新鮮な野菜をお届けしています。

DELICA FOODS HOLDINGS

デリカフーズグループは「業務用の八百屋」として、

外食・中食産業を中心に、安心・安全な野菜を

日本全国にお届けしています。



## 岐阜県園芸特産振興会 いちご部会 @岐阜県

デリカフーズに野菜を納入していただいている、生産者のみなさんをご紹介しますコーナーです。



### 当社との出会い

デリカフーズとは5年前からお取引をしています。市場とは違いエンドユーザーが見えるため、自分たちの商品がどんな人に届いているのか分かり、生産者のモチベーションに繋がっています。

### 目指すのは、全国に誇れるいちご なによりも「味」にこだわって栽培を行う

岐阜県内の18の部会で構成されている、岐阜県園芸特産振興会。そのなかのいちご部会では、JAや岐阜県と連携し、施設運営や新規生産者の支援、既存生産者に向けての人材の確保や、収穫・パック詰め効率化に向けた検討など、産地を維持していくための活動を行っています。扱っているブランドは、岐阜県産の品種である「美濃娘」「濃姫」「華がかり」。主な栽培方法は、高設栽培を推奨しています。苗を土に植えて栽培する土耕栽培と違い、地面から離れたところで栽培するため、いちご同士の擦れを減らし安定した収穫量を確保できる上に、作業がしやすいというメリットがあります。

消費者にブランドのファンになってもらうには、何よりも「味」が重要です。そのため、10月から6月までの出荷期間における気温や日照時間の変化を表したカラーチャートを作成し、温度や水量の管理を実施。一番美味しく食べてもらえる状態で出荷するよう意識しています。それに加え、各生産者への実証試験も行い、土地や環境に適した栽培を実現しています。

今後の目標は、全国の方々に「岐阜県と言えばいちごだね」と言ってもらえるくらい、美味しいいちごをつくることです。販売促進にも力を入れて、全国に誇る最高品質のいちごが提供できるよう、努力を重ねていきます。



## 会社概要

商号	デリカフーズホールディングス株式会社		
英文社名	DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.		
設立	平成 15 年 4 月 1 日		
創業	昭和 54 年 10 月 6 日		
所在地	〒121-0073 東京都足立区六町四丁目 12 番 12 号		
資本金	1,377,113 千円		
従業員数 (連結)	601 名 (他、平均臨時雇用者数 1,805 名)		

### 役員

代表取締役社長	大崎 善保	社外取締役	尾崎 弘之
取締役	小林 憲司	社外取締役	柴田 美鈴
取締役	仲山 紺之	常勤監査役	野村 五郎
取締役会長	舘本 勲武	社外監査役	森田 雅也
		社外監査役	三島 宏太

会計監査人 仰星監査法人

## 株式状況

2021年3月31日現在

発行済株式総数 14,872,000 株  
株主総数 11,001 名

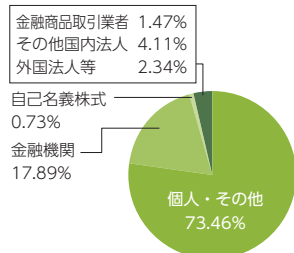
### 大株主

舘本 篤志	2,038,400 株
舘本 勲武	1,799,600 株
(株)日本カスタディ銀行 (信託口)	1,462,700 株

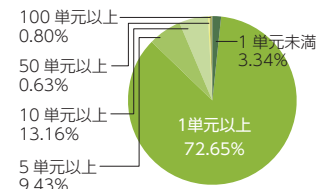
日本マスタートラスト  
信託銀行(株)(信託口) 481,700 株

大崎 善保	241,800 株
エア・ウォーター(株)	219,400 株
野村 五郎	189,800 株
丹羽 真清	185,500 株
株式会社クローバフォー	161,000 株
デリカフーズグループ 従業員持株会	145,900 株

### 【株主分布状況】



### 【所有株式数別分布状況】



## 株主メモ

事業年度	4 月 1 日～翌年 3 月 31 日
期末配当金受領株主確定日	3 月 31 日
中間配当金受領株主確定日	9 月 30 日
定時株主総会	毎年 6 月
株主名簿管理人	三菱 UFJ 信託銀行株式会社
同連絡先	三菱 UFJ 信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町 1-1 TEL.0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 株式会社東京証券取引所 (証券コード 3392) 電子公告により行う
上場証券取引所 公告の方法	電子公告により行う 公告掲載 URL <a href="https://www.delica.co.jp/">https://www.delica.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

### 【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機構(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

 **デリカフーズホールディングス株式会社**  
**DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.**  
〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号



IR最新情報は  
ホームページを  
ご覧ください。

デリカフーズ



<https://www.delica.co.jp/>

【お問い合わせ】 TEL 03(3858)1037 FAX 03(5851)1056



本事業報告書は、地球環境への負担を低減させるために、FSC®認証紙と、大豆油などをリサイクルして作られたベジタブルインクを使用しています。

**UD FONT**

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。